

『日本とインドネシアはここが違います』

ニラム ベクティ スマルダニ

日本に住んでいてよく受ける質問は、「日本とインドネシアはどこが違いますか」という質問です。

正直言ってあまり違いがありません。というより、違いに気づきません。というのも、私はインドネシアで生まれ育ちましたから。

インドネシアは一つの国ですが、もともとばらばらです。ばらばらといってもわかりにくいと思いますから、言葉を例に話します。

インドネシアには 300 以上の言語があります。私の実家はジャワ島です。私の主人の実家もジャワ島にあります。ジャワ島には、大きく分けて、ジャワ語を話す地域とスンダ語を話す地域があります。私はジャワ語を話す地域で育ちましたから、私と私の両親はジャワ語で話します。一方、私の主人はスンダ語を話す地域で育ちましたから、私の主人と彼の両親はスンダ語で話します。私と私の母がジャワ語で話すと、その中身を私の主人がわかりません。一方、私の主人と彼のお母さんがスンダ語で話すと、私はわかりません。

私の実家も、主人の実家も、どちらも同じジャワ島にあるのに、こんなに言葉が違います。

言葉も文化の一つですが、インドネシアには文化がいろいろあり、ばらばらです。だから、インドネシアの国の標語は、「ばらばらであるが、それでもなお一つ」、すなわち、多様性の中の統一になっているのだと思います。

このように、一つの国なのに言葉や文化が違うインドネシアという国に住んでいたからなのでしょうか、あるいは、日本に来たとき、私は 18 歳と大変若かったからなのでしょうか、日本の文化を何でも柔軟に受け入れていました。だから違いがあっても、それは当たり前だと思っていたのかもしれない。あるいは、勉強が大変で気にしている余裕がなかったのかもしれない。

そして、何年も日本に暮らすようになって、ますます違いがあっても当たり前のことのように感じ、当たり前のことのように身について、そのままに過ごし、そのうち、外見は日本人とは異なりますが、感じ方はまるで日本人ようになってきてしまったのかもしれない。

そのことに私は気づきませんでしたが、気づかせてくれたのはインドネシア人です。特に遠慮なくずけずけ指摘するのは私の母です。

あるとき、私の母が日本に来たときのことです。母が私に尋ねます。家に上がった途端、「お客さん部屋はどこ？」と聞きます。「ありません」と答えると、「なぜないの？」と聞いてきます。ここで言うお客さん部屋とは、お客さんが来たときにお客さんを通してお話をする部屋なのです。確かに長く日本に住んでいた私は、お客さん部屋がないことに慣れてしまっていました。考えてみたら、インドネシアではどんなに小さい家にもお客さん部

屋があります。お客さんが来たらお通ししなければならないからです。そうでないと失礼になります。

一方、日本では、ご近所の方が訪問してきたときに玄関で楽しく話しているのを見かけます。あれ、家に入りませんね。日本では玄関でお客さんとお話をしたり、玄関で用事を済ませたりすることがよくあります。これは日本ではごく普通のことです。決して不思議なことではありません。でも、インドネシアでしたら、お客さんを外に居させるのは恥ずかしいこと、お客さんはちゃんとお客さん部屋に通してお話しをするもの、だから家に入れるのが普通だと思っていると教えてください。

人から「日本とインドネシアはどこが違いますか」と聞かれます。すぐには答えられません。よく考えると確かに違うところがあります。でも、長く日本に住んでいて感じます。インドネシアの中の違いの大きさと比べれば、日本とインドネシアの違いなんて小さいものだと思ってしまいます。また、違うところがあっても、決してそれを悲観しないで、今はただそれらがあるがままに興味深く見えています。

ご清聴ありがとうございました。

『テレビが先生』

アンドリュ キバディリ シェーフアー

機動戦士ガンダム赤い彗星のシャアの名言の一つ、「見せてもらおうか、連邦軍のモビルスーツの性能とやらを」。今、皆さんは何を考えているのかを当ててみよう。「やだ、この人ただのおたくじゃない」。いかにもおたくにございます。

日本のアニメとドラマは、現在、外国で代表的な存在で、クールジャパンとして宣伝されている。つまり、アニメというのはかっこいい、そして、日本語を話すのもまたかっこいいと思われている。

日本人に、「なぜそんなに日本語が上手なんですか？」と聞かれるときに、「テレビが先生だからである！」と答える。もしくは、「ま、坊やだからさ」。

具体的に日本のアニメとドラマはエンターテインメントでありながら、日本語の勉強の一つの道具でもある。新しい単語や表現も実際に使われている上、最近の発音も使い方も覚えることができる。ポップカルチャーでもあり、最近のはやりも味わうこともできる。

例えば、羊頭狗肉という四字熟語を聞いたことあるかな。羊に頭に、変な字だけど、狗に肉と書いて羊頭狗肉。意味を調べてみたら、「高級羊肉ですよ！羊肉ですよ！高級ですよ！」と叫んで売っている店主さんが、高級ではなくて安い犬の肉を出している。これを知ることになったのはアニメのおかげ。英語にも同じ表現があるということもわかった。Crying wine and selling vinegar. ワインだと叫んで酢を売っている。これを知ることになったのはまたアニメのおかげ。

威風堂々も愚者一得を知ることでもまたアニメのおかげ。

しかし、テレビに出るものはリアルでもありというわけではない。例えば、少年アニメに不可欠のセリフ、「諦めろ、俺に勝てねーんだよ！」、「俺はぜってえ諦めねー！」、そして、「お前だけはぜってえ許さねー！」。

そこでだ。外国でテレビを見ているあなたはこう思ってしまう可能性がある。「へえ、なるほど、日本語の日常会話ってこんなテンションでやるんだ、ふーん」。そんな会話あるか。まあまあ、アニメだから、リアルじゃないから。

なら、ドラマのほうはどうでしょう。生の人間も出ているし、アニメよりずっと現実的じゃないか。

じゃあドラマによく出るセリフからやってみようか。「んだよ！言いたいことがあるならはっきり言え！」、出るよね、これ。ドラマによく出るセリフだから、じゃあこれをリアルに通じるかな。「んだよ！言いたいことがあるならはっきり言え！」、「わかった、はっきり言うよ。いいか、お前、ばっかじゃねーの？」、「なんで叩くんだよ！」、「そんなストレートに言っちゃだめに決まっているだろうが」、「さっき、はっきり言えって言ったじゃん」、「うるさい！」、「うるさいって、それこそストレートすぎるじゃんか」。

そうだ。日本語で単刀直入に言うのはだいたいいいけないんだ。

一方、アニメと現実を比較すると、「諦めろ、俺に勝てねーんだよ」、「痛ってー、何すんの、こいつ、やってらんねー。ってか、あんた勝つの無理じゃねえ」って感じ。

じゃあ、アニメだと、「よくも俺の息子を叱ってくれたな、店長さんよ！お前だけはぜってえ許さなねえ」。リアルになると、「申し訳ありません、すみません、このバカ息子でご迷惑おかけしました〜。ほら、お前も店長さんに早く謝りなさいよ！」。

つまり、私の経験からわかったのは、すなわち、テレビ先生の教えが限られているということである。

日本語を学ぶ道具としてはテレビは非常にいい。しかし、テレビは現実とは違う。テレビを使うのであれば、まず日本人に相談し、あ、訂正。これテレビだから何が出るかわからないから、純粹で信頼できる日本人に相談してから使わなきゃあかんぜよ。なぜなら、日本語をうまく使ってこそ本当のクールだっぺ。

ありがとうございました。

『赤ちゃんに戻ってしまったように』

マリー クリスティン ロレンズ

A F Sの留学生として去年の4月から桜ノ牧の1年生と一緒に勉強しています。

父親が日本が好きだったので、私も3歳のころからどういうわけか日本に絶対行きたいと思っていました。

今、18歳、現実に日本に留学しています。そして、今は大体普通の生活をする事ができます。

しかし、最初は全然違っていました。私は、哲学や日本の歴史とか美術などに興味があったので、質問もいっぱいしたかったのです。だから、日本に来るのはすごく楽しみにしていました。でも、なかなかうまくいきませんでした。日本語をうまく話せなかったし、漢字もできなかったの、うまく表現することができませんでした。何もできませんでした。もう一回、赤ちゃんに戻ってしまったように。すごくショックでした。

言葉だけではなく、ジェスチャーや体の動き方とか、顔の表情、私にとっては不思議に思ったことがたくさんありました。例えば、「え～、めっちゃかわいい～!」、「すげえ～!」などです。

生活の中での言葉の使い方も難しかったです。初めてスターバックスに行ったときにそれを発見しました。「お水飲みますか?」とお店の人に言われ、「もちろん」と答えました。だって私は人間ですもの。すると、お店の人は変な顔をして不思議そうに笑っていました。でも、私は、それは、今お水が飲みたいかどうかということが後でわかりました。恥ずかしくてコーヒーを持ったままお店を出てきてしまいました。

何もできない私を助けてくれる友達に悪いと思って自分でやろうとしていたけれど、スターバックスのこのように人に失礼なことをしてしまうのはよくないと感じました。それでお手伝いを受けることにしました。

ドイツでは友達を助けることのほうがたくさんありましたが、今は周りの人に多く助けられて日本で生活しています。そして、助けてもらう人の気持ちを知ることができました。

私にとってはとってもいい経験になっています。だから、日本の皆さんに心から感謝しています。

ご清聴ありがとうございました。

『インドと日本の教育』

アルル サバリムトゥ

みなさん、こんにちは。

インドのいろいろな言葉の中にタミル語でイラメイ カルという言葉があって、これはできるだけ若いうちから、できるだけいっぱい勉強しましょうという考え方です。

子どもたちは3歳から幼稚園に入って、いっぱい勉強して、6歳になると英語がぺらぺらになります。インドの学校で、九九までではなく、19×19まで覚えます。

ゼロやπを発見したのはインド人です。皆さん、1, 2, 3は目に見えますが、ゼロは目に見えますか。目に見えないゼロとπを初めてそれでも1500年前に見つけたことが重要だと思います。

インドの教育は質が高くてお金がかかりません。公立学校で勉強すると高等学校まで無料です。大学では、毎年、学校に払うお金が2万円ぐらいです。

インド政府は学生たちに無料でいろいろなものを出します。例えば、学校で使う本、制服、昼休みのご飯、家から学校までのバス代とか牛乳を無料でもらえます。中学生たちは自転車を無料でもらえます。

インドの文化で勉強を教える先生の仕事は神様より上という考え方があります。みんなも先生を尊敬します。先生は厳しく教えます。何か悪いことをすると怒ります。たまに叩くこともあります。私も宿題を忘れたときは叩かれたことがあります。

ラダクルシュナン先生は、国民の読み書き向上やインドの哲学教育で国民から大変尊敬され、第2代大統領になりました。それで、大統領が亡くなった後、国民は大統領の誕生日、9月5日を先生の日として行事を行います。学生たちは花でつくった首飾りとか本やペンをプレゼントします。その日、先生から特別な話をしてもらうことを学生たちは楽しみにしています。

イギリスから独立した1947年、読み書きできる人の割合は12%でしたが、現在は73%、10年後は100%にする計画があります。

2010年、インドの6歳から14歳までの97%の子どもが学校に入っています。インドの学校でITや経済の基礎となる数学と、世界のコミュニケーションの基本である英語をいっぱい教えていることが国際的にインドに有利になっています。

ところで、私の妻は1年間日本の学校で英語を教えていました。そのとき、日本の学校のことをいろいろ教えてもらいました。皆さん、日本の学校で勉強する量が少ないと思わないですか。先生はすごく優しくすぎると思わないですか。私の考えは、先生は厳しく教えるほうがいいと思います。13歳までは叩くこともいいと思います。それで、学生たちは何がいいか、何が悪いかがきちんとわかると思います。

インド政府のように日本政府ももっといろいろなものを無料で出すほうがいいと思います。

しかし、インドでは学校によって設備とか教室の大きな違いがありますが、日本ではどの学校に行っても一定以上になっていることがいいと思います。また、インドには学校に行けない子どももいますが、日本では100%の子どもは学校に入っていることがいいと思います。

これで終わりたいと思います。どうもありがとうございます。

『タイにはない「日本ならではの」』

テラダ シリポーン

皆さん、こんにちは。

皆さんは、「ならではの」という言葉を聞いて何を思い浮かべますか。

きょうは、私が日本での生活の中で出会った幾つかの「日本ならではの」について話をしたいと思います。

まず、1つ目は、玄関で靴を脱いだときのことです。私のふるさとタイでは、靴を脱いだら脱ぎっ放しで家に上がります。時には靴が重なり合っていることもありますが、誰も気にしません。日本では、靴を脱いだら、靴の向きを変えてきちんと揃え、置き直します。最初は、何のためにと不思議に思いましたが、次に靴を履くときスムーズに履けます。何より玄関がとてもきれいに見えます。日本人特有の礼儀正さを表している「日本ならではの」生活習慣だと思いました。

2つ目は、お風呂についての話です。

私の故郷はタイ東部のウドンタニー県というところですが、タイ国内においても最も気温が上がる地域です。そのため、水浴びは欠かせません。人によっては1日2～3回水浴びをします。

私が初めて日本のお風呂に入ったときは、お湯が肌にひりひりとしみ、湯船につかることができませんでした。自分が入ったお湯は汚れて汚いと思い、お湯を全部捨ててしまいました。そして、次の人のためにまたお湯を入れ直したことがありました。

今では、経済的にもったいなくてとてもそんなことはできません。そればかりか、残り湯で、翌朝、洗濯もしています。初めのころは、体を洗った残り湯で洗濯するのはちょっと違和感を持ちましたが、今ではすっかり慣れてしまいました。

どちらも昔からの日本の生活の知恵を表している「日本ならではの」の一つではないでしょうか。

最後は、コタツについて話します。

コタツを最初に見たとき、ニワトリを飼育するための道具かと思いました。タイにもこれに似たようなニワトリの飼育用具があるからです。ニワトリはコッココッココッココッコとうるさいため、暗くなると金網の上から布をかけてしまいます。そして、翌朝、その布を取れば元気にコケコッコと鳴き、卵を産んでくれます。この布をかけた形がコタツに似ていたため、こんなふうに思っていました。

コタツは、みんなで足を入れ、輪をつくり、温まります。これはコタツの輪と同時に、日本の輪であり、冬になればなくてはならない「日本ならではの」のものではないでしょうか。

「日本ならではの」を挙げればきりがありません。春の桜、夏のお祭りに浴衣、そして秋の紅葉、お正月の餅つき、どれをとっても「日本ならではの」のものばかりです。

私の第二の故郷として、これからももっと多くの「日本ならではの」に出会えることを楽しみにしています。そして、日本で学んだ「日本ならではの」をタイのみんなにも紹介していきたいと思っています。

ご清聴ありがとうございました。

『日韓WIN-WIN大作戦』

具 珉徹

私が日本に来た去年の4月から今まで一番多かった質問は、「日本と韓国、一番違うのは何ですか？」でした。一番違うのは何でしょうか。食べ物の辛さ？ 男の魅力？

私が見て感じた一番違ったものは学生たちの表情でした。よく笑わない暗い顔をしている韓国の学生に比べて、日本の学生はほとんど笑顔で、とても明るい表情をしているなど感じました。

なぜ表情がこんなに違うのでしょうか。

まさにその理由は教育の環境にありました。

韓国は、今、ものすごく厳しい受験競争社会です。昔、中国から来た儒学思想を土台としてつくられた科挙試験という試験は誰でも受けることができる国家公務員試験でした。武人より学者が偉い位置だった昔の韓国で、この試験は、平民も貴族になれるととてもいい機会でした。

そんなことは、今でも、ただ科挙試験が大学受験になって続いています。

今のイ・ミョンバク韓国大統領みたいに、貧しい農家の息子で生まれても、自分が努力すれば大統領までになることができる社会が韓国です。

それで、みんないい大学に入ると偉い人になれると信じながら、子どものときから競争します。高校生の85%以上が大学に進学するので、とても大変な競争になっています。

こんな教育環境で、韓国の学生たちは強い精神力と意志、そして高い知識水準を持つようになっていますが、学生の負担、高い教育費などの受験学問以外の教育の不足などのいろいろな問題も起きています。

日本も、昔、高度の経済成長期のときには厳しい競争社会でした。しかし、今の韓国みたいにいろいろな問題が起きて、勉強の量を少し減らして、競争をちょっとなくす教育政策を適用しました。

その結果、学生たちはもっと楽になったし、もっと安定的になりました。しかし、ちょっとゆとりすぎになってしまった学生も増えるという問題も新しく起きました。

現在、そして未来の厳しいグローバル社会で生き残るため、そして日本が今のようにならずとアジアを代表する先進国として残るためには、やはり努力するのは必要だと思います。過度の競争はもちろん悪いのですが、適度な競争は誰かに認められるための、そして悔しさに勝つための努力するきっかけをくれるのではないのでしょうか。

日本、韓国みたいに資源がない国は、人こそが資源、そして国家競争力だと思います。その人をつくる教育に私たちは力を合わせなければならないと感じます。

2011年の今、日本と韓国はいろいろな交流をしています。これからは教育交流の順番だと言いたいです。韓国は日本の教育環境を教訓にして、効果的にゆとりを探す。そして日本は、まだ熱い韓国の教育環境を見て、昔の教育情熱を生かすことなどができるのではな

いでしょうか。

韓国は日本を見ながら成長したし、今もずっとずっと発展しています。その日本と韓国、遠いながら近い、そしてライバルながら友達、私たち二人がこの世界で共に勝つためのWIN-WIN大作戦は今からです。

ありがとうございました。

『わかんねけれども、おもしろい茨城べん』

アストリ デウィ ラネスティア サガラ

皆さん、こんにちは。

今まで1年ぐらい日本にいるのに、日本語、難しかっぺよ、わかんね。

初めて日本語を勉強したとき、普通の日本語を勉強しました。でも、茨城に着いたとき、新しい日本語を勉強しました。茨城弁です。最初は全然慣れていなかったから、なかなか難しいと思いました。普通の日本語をまだ勉強しなければなりません。さらに方言もわからなければなりません。

ある日、同僚は、「いくべ」と言いました。意味はわからなかったけれども、一緒に行きました。

また、別の同僚に質問したとき、「知んね」と言われました。そのとき、お正月の新年の音が聞こえました。それで、私がした質問とお正月の新年の意味は関係がないから迷いました。迷ったのにもう一回聞きませんでした。

それからだんだん茨城弁がわかるようになったので、「知んね」の意味もわかりました。「知らない」です。お正月の新年の意味と関係がないから、意味も全然ありません。

皆さん、茨城弁はおもしろいと思います。普通の日本語で言いたいとき、何か言葉があまりあわないけれども、方言を使うともっとびったりします。例えば、「食べないんちゃった」、普通の日本語は「食べませんでした」。でも、「食べませんでした」と言ったとき、気持ちは入っていません。意味も普通です。でも、「食べないんちゃった」と言うと、残念な気持ちがあります。

そういうことだっぺ。私もわかんねけど、そんなことを言われたんだっぺ。

私の国インドネシアで大体同じようなことがあると思います。インドネシアにいろいろな民族があります。でも、インドネシアはインドネシア語を使います。そして、方言もたくさんあります。でも、インドネシア語を使っているとき、意味はあまりありません。でも、方言を使うとびったりします。そういうことです。

皆さん、茨城弁はお年寄りによく使われています。若い人があまり使いません。同僚にそのことを聞いたことがあります。理由は、恥ずかしいからと言っていました。

私の考えは、恥ずかしいと思っではいけません。なぜなら、方言はとてもすばらしいと思います。茨城のイメージもよくなると思います。例えば、スポーツの大会のとき、茨城県の人が優勝しました。それで、その人がスピーチしているとき茨城弁を使いました。聞いた人は茨城県人だとすぐわかりました。そうすると茨城のイメージもアップします。

でも、方言を使ってもきれいな表現を忘れないで方言を話しましょう。なぜなら、言葉は文化と同じだから、考え方も影響されると思います。きれいな言葉なら、その土地もきれいな土地になると思います。

はい、以上です。ありがとうございました。

『私に話しかけないで』

金 承赫

皆さん、ちょっと想像してみてください。

皆さんが私に食事を勧めて、「おいしい？」と聞きました。私が「話しかけないで」と答えました。もしあなただったらどう思いますか。感じの悪いやつだなと思いますよね。

でも、私の育った地域の文化では、これは何も話したくないぐらいおいしいですよといういい意味でも使う表現なのです。

実は、これは私が日本に来てやってしまった失敗の一つです。

アルバイトの後、みんなでご飯を食べていたとき、店長は私に「おいしいか？」と聞いてくれました。店長に親しみを感じていた私は、つい国の感覚のまま、「話しかけないで」と言ってしまいました。もちろん、店長は今まで見たことのない変な顔をしていました。

後で一人になって、店長はどうして変な顔をしたんだろうと考えてみて、文化の違いから誤解されたのだと初めて気づきました。文化が違うと冗談も冗談として通じない、日本人とのコミュニケーションは難しいなと落ち込みました。

日本に来たばかりのとき、あるレストランで恋人同士が普通に食事をして、会計のときに別々にお金を払っているのを見てびっくりしました。恋人の関係なのに別々に会計するってなんだ。この二人は本当は仲が悪いんじゃないかとまで思いました。中国で、恋人の関係ならこんなことはほとんどあり得ないことです。

このように日本のコミュニケーションに戸惑ってばかりの私でしたが、留学生活が長くなるにつれて、この距離感もなかなかいいなと感じるようになってきました。

中国にいたとき、親しい友達は、夜でも夜中でも遠慮なく訪ねてきて、どこかへ行こうと誘います。そして、それを断ることができない雰囲気があります。親しさに甘えて、私の都合など考えずにあれこれ言うてくる友達を迷惑に感じることもありました。

日本語学校の授業中に、先生に「親しき仲にも礼儀あり」という言葉を教えてもらいました。日本の古い考え方だと思いますが、中国人の私にも共感できました。

あのレストランで会った恋人たちのことを、今、思い出してみると、お互いを尊重して付き合っている様子が温かくていいなと思います。適度に距離感を保つことによって、何ともいえない微妙な美しさを感じるような気がします。

留学生として日本に来て、このようなことに気づくことができよかったですと思っています。

ご清聴ありがとうございました。

『勘違いするな！』

冷 明川

皆さん、こんにちは。

きょう、ここに立たせていただき、まことにありがとうございます。

僕は17歳で、去年の10月から日本に留学しています。アニメに憧れて、どんなところだろうなと思っていました。

実際に来て、やっぱり女の子がかわいいなと感心しました。うれしくなって携帯を取り出してシャッターを押した瞬間、僕は後悔しました。日本の携帯は写真を撮るとき音が出るのを忘れていました。まずいな、空に向けよう、ああきれいだなあって。

初めてクラスに入って自己紹介をしたとき、本当に緊張しました。女子はともかく、なんだか男子たちの視線が、「ああ、こいつ、なんだよ」という感じでした。気のせいかな。でもしょうがないです。外国人として家を離れ、全然知らないところに行くのはやっぱり不安なんです。周りの人が自分についてどう思っているだろうと気になります。そして、自然にその人たちの目を見て、視線から情報を得ようとします。すると、一番よくあるのは、その人があまりフレンドリーじゃなさそうな視線で僕を見るんです。なぜかという、「ああ、こいつ外国人だな」と思っているからでしょう。別に深い意味とかありません。それは日本に来たばかりの僕にはわかりませんでした。だから、休憩時間するとき、怖そうな男子たちが僕に話しかけようとしたとき、なんだ、まさか喧嘩でもする気か、とさえ思ってしまった。

日本にいて一番怖いのは何かと聞かれたら、正直、笑い声なのです。

ある本で読みましたが、人間は全く自分と関係のない人が愉快そうなとき、自分は不快を感じるという生物だと書いてありました。以前の僕はなかなか理解できなかったんですけども、今は何となくわかるようになりました。それは、自分が孤立しているような気持ちになることでしょう。僕は繊細すぎるせいか、よくこういう気持ちになります。

例えば、ある日、僕は一人ぼっちで学校の廊下を歩いていて、後ろから日本人の生徒たちのとても楽しそうな声が耳に入りました。その後、大げさなほど大きな笑い声を出しました。言葉がよくわからないので、聞けば聞くほど、むかつくな、俺に何か悪いことを言っているんだろと思ってしまいました。

実は、よく考えると、話したり笑ったりするのはごく普通じゃない。中国の学校で、僕もこんなことをするじゃない。ただ、自分が会話の中において、友達が話したり笑ったりしても会話の筋がわかるから気にしていないでしょう。

逆に、知らない人に囲まれたら、つい自分に意識過剰になってしまって、まるで全人類が自分を見ているような気持ちになります。他人が何を話しても、それは自分に対しての言葉じゃないかなと思ってしまうのです。

日本にいる時間はまだ短いですが、こんなことは少なくありません。しかし、多くの場

合は勘違いなんです。他人が自分に話しかけるのを待つより、自分からフレンドリーな気持ちを伝えるほうがいいではありませんか。

僕もいつか日本語が上手になって、日本人だと勘違いされるよう頑張ります。

そして、今度、誰かと目が合ったとき、微笑むなり何なりしようかな。えっと、神様、僕の笑顔が醜すぎて相手が殴ってきませんように。

ありがとうございました。

『たいへんだけどがんばります』

エロディ ファー

皆さん、こんにちは。

私の名前はエロディです。18歳です。

去年の8月、フランスのサロンドプロヴァンスから来ました。

今、茨城キリスト教学園高等学校へ通っている留学生です。

私は、小さいときから外国の言葉が好きで、学校で、ドイツ語、スペイン語、英語を勉強しました。また、ヨーロッパとは全く違うアジアの言葉、特に日本語の滑らかな音とリズムが好きで、日本語の勉強を始めました。

日本のGACKT、GLAYの大ファンで、彼らの歌が大好きです。フランスでも有名なんですよ。

きょうは皆さんにフランスの高校生活を紹介したいと思います。

まず、生徒たちの朝は先生の休みのチェックから始まります。休みの先生がいたら、その日はラッキー。次の授業が始まるまでの間、友達と街へ出て、カフェに行ったり図書館に行ったりして自由に過ごせるからです。ね、日本ではね、それは考えられませんよね。担当の先生が休みでも、代替りの先生がいらっしゃいますから、絶対に勉強しなくてはなりませんよね。

フランスの高校は、教科ごとに教室が変わるので、休み時間が移動で忙しいです。座る席は決まっていませんから、席替えもありません。

フランスの高校は制服もありません。何を着ても自由です。でも、過激なミニスカートなんかでおしゃれをしすぎると怒られてしまいます。

日本の制服はみんな同じだと思いましたが、よく見ると超ミニスカートをはいている女の子たちが多くてびっくりしました。

それから、男の子たちが髪型にこだわることにも驚きました。フランスの男の子より気を遣っていると思います。

そして、勉強が大変なのはフランスも日本も同じです。フランスでは、中学を卒業するときに大学へ進学するかどうかを決めて、近くの高校へ行きます。

進学試験はありませんが、高校卒業の試験ではとっても厳しいです。例えば、哲学の試験では、問題は1問だけ。4時間の制限時間に本を見ないでレポートを書き上げなければなりません。そういうテストが7教科あります。日本のセンター試験に似ているかもしれません。

私は、去年の6月、このテストに合格しました。この夏、帰国してパリの大学へ入ったら、もっともっと勉強が大変になります。でも、今、頑張ることは夢への近道だと思います。

私の夢は、日本人にフランス語を教える先生になることです。夢をかなえるために日本

での残りの時間も頑張って勉強します。

きょうは私の話を聞いてくださってありがとうございました。

『私の名前はビクターグリマッチョ』

ビクター アルフォンソ グリマルド

こんにちは。

私の名前はVictor Alfonso Grimaldo, 25歳です。

日本に来て2年になります。アメリカのフロリダ、マイアミから来ました。マイアミは、一年中暖かいので、日本の冬はめちゃ寒いんです。私の小さいアパートは大きな冷蔵庫になるので、死んじゃいそうです。寒いから死にたいと言っていたら、いつもみんなが笑いました。どうしておかしいのか、最近、やっとわかりました。でも、とっても寒いとき、やっぱり、本当に死にたいと思ってしまいます。

私のことをもっと話したいのですが、私の体を見てもらったほうが早いと思います。私の母に、「Victor, ちょっとやせたほうがいいんじゃない」と言われると、もしかしたら少しだけぽっちゃりしているかもしれません。いいえ、私の体は日本人より肩が広くて、胸が厚くて、骨が太いので大きく見えるだけなんです。

私の仕事は小学校のALT。英語を教えることは楽しいですが、子どもたちはとっても正直です。私の胸やお腹をぎゅっと掴んで、「わあ、ぽよんぽよん」、「ふわふわ」、「お腹ぼんぼん」といろいろなことを言います。生徒のことは大好きです。でも、太っていない、がっしりしているだけだと思っているので、がっかりして、私の心の中はカチーンと音をたてて壊れます。それでも、「ビクター、筋肉すーげー」、「ビクター、マッチョマン」と言ってくれるとうれしくなります。

私の一番気に入っているニックネームは、ビクター グリマッチョ、ちょっとかっこいいでしょう。

この体のおかげで、私は生徒たちとすぐに仲良くなれます。私の顔を見ると、「Hello!」、そして、突然、「This is Pen!」。本当は「This is a Pen.」、ちょっと間違っていますが、英語で話してくれるからまあいいか。

私も、結局、子どもたちが使うちょーかっこいい、すごいじゃんのような辞書にない日本語を覚えてしまいました。

うっかり、「頑張れー、Don't mind!」と言ったら、生徒たちは、「えー、意味わかんない」、私も、えー、ああ、日本語では「ドンマイ」でした。

こんなふうに私は元気な生徒たちと毎日を楽しんでいます。だから、私の体をでかいと言いながらも、ニコニコと英語を勉強している子どもたちの笑顔を見ると、私の心もニコニコ。

そして、その子どもたちが、将来、恥ずかしくないで英語を話せるようになるのが希望で、私の大きい胸は膨らんで、もっと大きくなりそうです。

日本で外国人がALTになる理由はみんなそれぞれです。私の場合、日本語が面白い、何か子どもたちのために仕事がしたいと思っていたので、今の仕事は私にはぴったり。子

どもたちに教えることは、私の幸せ。

私の名前は Victor Grimaldo, でも, ビクター グリマッチョと呼んでください。

ありがとうございました。

『日本人の娯楽は何のため？』

田 小雪

皆さん、こんにちは。

働く日本人と娯楽について話したいと思います。

私は、研修生として中国から日本に来て2年になりました。やっと日本の習慣に慣れ、たくさんの娯楽があることを知りました。

日本人の印象は、仕事が真面目でいつも一生懸命です。よく働く人を、働き蜂とか、仕事が趣味という言葉で聞きました。

しかし、仕事ばかりしているわけではありません。例えば、サラリーマンのような人が、仕事が終わった後や日曜日など、ゴルフをやります。青空の下で伸び伸びとゴルフをするのはとても楽しいでしょう。会社の上司にもゴルフが趣味という人がたくさんいます。

また、時間とお金のある人は旅行がしたいと考えるでしょう。

私たち研修生は遠くまでなかなか外出する機会はありません。ですから、会社の旅行はとてもうれしいです。

先日、日帰りバス旅行で鎌倉に行きました。鎌倉は、約1,000年前、政治の中心都市として栄えたそうです。現在は観光地として人がたくさん来ていました。鎌倉の守り神である鶴岡八幡宮や大仏など、たくさんのお寺や神社を見て、日本の文化を知ることができました。

バスの中では、歌を歌ったり、とても楽しい一日でした。

そのほか、スポーツ観戦があります。野球、サッカー、相撲など人気があります。私は特に相撲が大好きです。テレビでしか見たことがありませんが、力士があまりに大きくてびっくりしました。

相撲は何も道具を使いません。人間の力と力がぶつかるすばらしいスポーツです。勝負に負けて土俵下に落ちた相手に手を差し出し、起こしてやる力士もいます。負けた相手にも敬意を払い、礼儀を大切にしている日本人の心が見えました。

現在、横綱の白鵬関や大関の日馬富士関などモンゴル出身の力士がたくさんいます。中国出身の力士が誕生してほしいと願っています。

また、日本人の多くはカラオケを楽しみます。私も大好きです。

忘年会、新年会、歓送迎会などの二次会は決まってカラオケに行きます。普段、仕事するとき、あまり話さないような人が、マイクを握ると人が変わったかのように歌います。歌うことはストレスが発散できるとその人は言いました。

仕事するときとのギャップに驚きました。でも、私は次の日の仕事から、その人に親しみを感じるようになりました。カラオケのように、たくさんの人との娯楽は大切なコミュニケーションの一つだと思います。

私も、今、カラオケで日本の歌がたくさん歌えるように練習しています。

このように、日本の娯楽はたくさんあります。日本人にとって娯楽は、一生懸命働いた自分へのご褒美なのかもしれません。遊ぶときは遊び、働くときは一生懸命働く。娯楽を楽しむことによって、明日からまた真面目に一生懸命働けるのではないのでしょうか。

ご清聴ありがとうございました。

『心のふるさとを探す』

李 世怜

皆さん、こんにちは。

私は、茨城県の大甕に住みながら、ときどき水戸に買い物しに来ます。好きな服を選びながら買い物に夢中になっているとき、まるで外国語のように韓国語が聞こえてくるときがあります。「あ、韓国人だ」、一瞬、一緒だといううれしさと、彼らの生活に対する心配が私の心の中に浮かび上がります。彼らはここでどんなふうに生活しているのかな。寂しくはないのかなと。

でも、私は、彼らがここで元気で暮らしているのだらうと信じます。なぜなら、彼らも私のように、なぜか寂しい日には、家の帰り道にきらきら光っている夜空を見上げながら元気をもらっているのかもしれないからです。母国と同じ夜空の下にいるのを感じながら。

日本にいる在日韓国人の数は約 50 万人で、それは日本の居住者の約 500 分の 1、5,000 万人の韓国人の中で約 100 分の 1 に当たります。結構多い数だといえます。

また、韓国人以外にも、世界各地から来た外国人の方がたくさん日本に来ています。

どうして彼らは日本に来るのでしょうか。理由はいろいろあると思いますが、私は、それは世界の人々の考え方が変わり、異文化への態度も開放的に変わったからだと思います。つまり、国と国との壁がどんどんなくなっているのです。

茨城県に住みながらも、私は何人かの韓国人に会ったことがあります。10 年以上、日本の会社に勤めながら一人暮らしをしている韓国人のおじさんや、私が通っている学校の卒業生で韓国人の方と結婚し、新所帯を構えているおばちゃんなどに会いました。

その中の一人に私は聞きました。「なぜ母国に帰らないで、ここ日本に住んでいるのですか」。理由は簡単でした。ここが住みやすいから。韓国のキムチやナムルも近所のスーパーでやさしく買えるし、テレビでも韓国ドラマも結構出ているし、意外に住みやすいかもしれないです。

でも、寂しいかもしれない外国生活をなぜ続けようとするのか、彼の意図が私は理解できませんでした。

私を見た彼は、なぜかもうここでの生活に慣れて、まるでこの生活を楽んでいるように見えました。

フランスの風景画家ベルネはこのように言いました。人は他郷で生まれる。生きることはふるさとを探すこと。結局、思うのは人生だ。人は、生まれるところはそれぞれだし、また、心の故郷もそれぞれだと思います。

もうすぐ韓国に帰ることになっている私にとって、茨城県大甕は私がいつかまた戻ってきたいところに間違いない、心の故郷です。

というように、彼も、いつか出張で日本を訪れて以来、また戻ってきたのでしょう。

グローバル化になっている今の時代、私は遠からず世界各地から来た外国人が自分の故

郷を探しに回るときが来ると思います。そのときには、もっと多様な文化が共存できる社会文化が必要で、大事なことになると思います。

また、そのためには、私たち一人一人がお互いの違いを受け入れる姿勢を持つよう、頑張らなければならないと思います。

いろいろな出身の人々が認められ、みんなで幸せに過ごせる世界を願ってやまないです。
ご清聴ありがとうございました。

『茨城高専ロボット部に入部して』

ハディナタ アグネス

皆さん、せっかく日本に来たから日本でのいい思い出をつくろうと思うでしょう。日本の文化を体験することや、日本人友達をつくることなど、いろいろありますね。

私は日本で3年間ぐらいいまして、浴衣を着たり、和菓子をつくったりするなど、いろいろ体験しました。

ですが、私にとって一番忘れられないのは茨城高専ロボット部に入部したことです。私は、日本のロボット技術をきっかけに日本に留学しました。茨城高専ではロボット部があるということを知って、ロボット部に入部することにしました。

活動を始め、思ったより簡単ではありませんでした。私の日本語は通じなかったし、ロボットづくりの知識もありませんでした。

入部直後、NHK「ロボットコンテスト」の準備があって、毎日、アイデア会議でいっぱいでした。アイデア会議では、コンテストの課題をクリアするために、ロボットはどのような形にするか、どのような動きにするかを決めるのです。

みんなは積極的にアイデアを話したり意見を述べたりしましたが、私は何も言いませんでした。その理由は、みんなが何について話しているかがわからなかったからです。

しかし、このままではだめなんです。少しでも自分のアイデアを話したいという気持ちで、私は辞書を引きながら会議に出ました。

また、2カ月経って、いろいろな工作機械の使い方を習って、部品をつくれるようになりました。ですが、つくれるといっても精度が悪かったです。部品を作り直すということは少なくありませんでした。

ハンダ付けの練習もあって、ハンダの臭いに慣れていない私はきつuitと感じました。

しかし、辛いことがあればいいこともあるはずです。例えば、初めて自分でつくった回路が動いてすごくうれしかったです。ただ簡単なスイッチとトランジスタでランプを点灯させる回路だけでしたが、私の心までも点灯しました。

しかも、NHK「ロボットコンテスト」のピットクルーとして選ばれたなんて、全然思いませんでした。本当に私でいいのかと思うぐらいです。

茨城高専ロボット部に入部していろいろな人に会いました。ロボット部の皆さんは優秀で面白い人ばかりです。例えば、回路とプログラミングの天才がいます。回路がうまくいかないとき、彼に聞けば解決できます。また、皆さん、Minesweeperというゲームを知っていますよね。彼は三角形 Minesweeper を自作しました。

それで、寒さが好きな人もいますよ。どんなに寒さが好きかというと、真冬でも半そでTシャツ1枚です。しかし、ある日、彼はジャケットの姿で学校に来ました。あれ、驚いた私たちは、「大丈夫？」と聞いたら、「いや、きょうはちょっと体調が悪いのでジャケットを着ました」と彼が答えました。

1年半ぐらいロボット部の部員になって、一つ気づいたことがあります。それは、私はスムーズに日本語が話せるようになりました。もちろんぺらぺら話せるとはまだいえません。私がこのように日本語が話せるようになったのはロボット部のみんなのおかげなのです。みんなは親切に日本語を教えてくださいました。間違った文法を直してくれたり、新しい言葉を教えてくださいました。

さらに、一人の同級生がサービスとして、ツンデレやロリコンなどのような若者言葉も教えてくださいました。

私にとって茨城高専ロボット部に入部する決意は、今までの人生の中で最もいいものです。今までの思い出は一生忘れません。これからの思い出も楽しみにしています。

皆さん、ぜひ日本での思い出をいっぱい作りましょう。

ご清聴ありがとうございました。

『僕はウルグアイ型人間？日本型人間？』

オラシオ オリベラ

皆さん、こんにちは。

オラシオ オリベラと申します。ウルグアイから来ました。

きょうは、ウルグアイ型人間と日本型人間について話したいと思います。

私が日本に来ることになったのはいきなりでした。来日のための書類の準備、仕事の後始末を終えると、もうウルグアイの空港に立っていました。

何か足りません。そう、心の準備でした。36時間のフライトの間、ずっと不安を抱えながら成田に着きました。さあ、日本の生活が始まります。

東京まで初めてバスに乗ったときのことです。なにやらスピーカーから流れてきます。「おタバコはご遠慮ください」とか、「シートベルトをおしめください」とか、「携帯電話の電源をお切りになり・・・」と長々と続き、注意はなかなか終わりません。私はバスでよく寝る人ですが、「何とかかんとかしてください」と言われるたびにはっと目が覚めてしまいます。しかし、時間とともにスピーカーから流れる優しい女性の声は子守唄のようになっていきました。

さて、去年のことです。2年ぶりに1カ月半の帰国をしました。そのとき、友達の結婚式に参加することになったのですが、2時間ほどのバスに乗ったときのことです。バスに乗った途端、何か足りないなと感じました。そうです、スピーカーの声がありません。そのせいかわかりませんが、結婚式場まで全然眠れませんでした。

しかしです。ここは日本じゃないよと思い知らされたのは、その帰り道でした。朝5時ごろにバスを降りようとしたときです。「バスがよく停まるまでお席をお立ちにならないように」という習慣が身についていた私は、バスが完全に停まってからおもむろに荷物を下ろし始めました。ところが、バスが突然急発進し、猛スピードで走り出したのです。「降りま〜す！」と叫ぼうにも遅すぎました。家から10キロも離れているバス停までそのまま乗っているしかありませんでした。

また、ロータリークラブで日本の話をすることになったときのことです。もちろん、私は約束の時間ぴったりに会場に着きました。しかし、まだ誰も来ていません。しーん。その後、ずいぶん経ってからぼつんと1人来て、結局始まったのは1時間後でした。

それと、あいさつについてですが、ウルグアイでは初めての女性に対しても気楽にベソとって頬と頬を寄せ合うのですが、私は自然に頭を下げてしまったり、ちょっと手が触れただけで、思わず「ごめんなさい！」と言ってしまい、相手に「どうして私を避けるの」と怪訝な顔をされたりしました。

また、友達に、「日本だったら家も道路ももっときれいだよ」と何気なく言うと、「お前は日本人か！日本に帰れ！」と言われてしまいました。

しかし、これらの失敗は、私にウルグアイと日本について考えるきっかけになりました。

日本型人間は細かく注意したり，あるいは注意されたりして間違いが起こらないようにし，時間や規則を守る人が尊敬されます。人と人との関係についてはとても親切ですが，少し距離感があるようです。

一方，ウルグアイ型人間は，自分の行動は自分で責任を持ち，時間に遅れても非難されるどころか，かえってもっと重要なことを抱えている人として尊敬されたりします。人間関係については親密であると言えるでしょう。

どちらがいいと思いますか。

さて，日本にわずか2年住んだだけで完璧に日本型人間になっていた私の中には，ウルグアイバージョンとともにもともと日本バージョンが潜んでいたのかもしれませんが。

私は今年の3月にウルグアイに帰国しますが，両方うまくコントロールし，より魅力的な人間になりたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。